

高校生の4人に3人が「今、幸せ」であり、 約7割が「自分の将来も明るい」と回答。 一方、「人生100年時代」については、 好ましいと好ましくないの割合が拮抗。

株式会社リクルートマーケティングパートナーズ（本社：東京都品川区 代表取締役社長 山口 文洋）が運営する、リクルート進学総研（所長：小林 浩）は、高校生の社会観・キャリア観・進学観・ライフデザインに関する調査「高校生価値意識調査」を実施いたしました。この度調査結果がまとまりましたので、一部をご報告いたします。

今の自分は、幸せだと思うか

- 高校生の76.8%が、“今、幸せ” （「幸せ・計」の集計）

自分の将来は、明るいか

- 高校生の68.5%が、自分の将来が“明るい” （「明るい・計」の集計）
東日本大震災後の2012年調査より「明るい・計」が13.2ポイント上昇

IT・AIが普及した社会で『自分が働くこと』について

- 高校生の72.9%が、“好ましい” （「好ましい・計」の集計）
- 男子の方が、女子よりポジティブにとらえている
「好ましい・計」の男子は80.7%、女子は64.9%。男女間に15ポイント以上の差
- 「好ましい理由」は、「仕事が楽・効率的になりそう（61.7%）」が突出
男女ともに、IT・AIと共存した働き方をイメージしている
＜好ましい理由＞回答者のトップ3
1位：仕事が楽・効率的になりそう（61.7%）
2位：今は存在しない新たな職業や仕事をする事ができそう（32.9%）
3位：危険な仕事をしなくてよくなりそう（22.5%）
- 「好ましくない理由」は、「人間の仕事がなくなり就職難になりそう（70.0%）」が突出
＜好ましくない理由＞回答者のトップ3
1位：人間の仕事がなくなり就職難になりそう（70.0%）
2位：今、就きたい・興味がある仕事がなくなりそう（43.0%）
3位：ITやコンピューターが苦手だから（12.3%）

「人生100年時代」について

- “好ましい” と “好ましくない” が、二分される結果に
「好ましい・計」45.6%、「好ましくない・計」45.7%、「わからない」8.8%
- 男子はポジティブ、女子はネガティブ
「好ましい・計」の男子は50.3%と半数超え、女子は40.8%で半数以下
- 大都市圏の方が、ややネガティブ
「好ましい・計」は、大都市圏44.9% < 大都市圏以外46.2%

※出版・印刷物へデータを転載する際には、“「高校生価値意識調査 2018」リクルート進学総研調べ”と明記いただけますようお願い申し上げます。

【本件に関するお問い合わせ先】
株式会社リクルートマーケティングパートナーズ
https://www.recruit-mp.co.jp/support/press_inquiry/
【リクルート進学総研 WEBサイト】 <http://souken.shingakunet.com/>

【調査概要】

■ 調査目的

高校生の将来イメージおよび進路選択に対する価値意識を把握する。

■ 調査期間

2018年9月12日（水）～9月14日（金）

■ 調査方法

インターネット調査

■ 調査対象

2018年9月現在、高校1年生～高校3年生で大学・短期大学・専門学校いずれかへの進学を検討している男女。
株式会社マクロミルのモニター会員のうち、2018年9月時点の高校生を対象にスクリーニング調査を実施。

この調査は、2007年～2014年まで隔年（※）4月に実施してきたが、2015年・2018年は9月に行った。

（※）＝2007年、2009年、2012年、2014年の4回実施。2011年は東日本大震災の影響を考慮して2012年に実施を延期した

2007年～2014年調査は4月に調査実施であるため、調査実施年3月時点での高校生のうち以下2条件いずれか該当者を調査対象としている。

①調査年度4月時点において高校2年生～高校3年生で、大学・短期大学・専門学校いずれかへの進学を検討している男女。

②調査年度4月時点において高校既卒者であり、高校在学中に大学・短期大学・専門学校いずれかへの進学を検討したことがある男女。

■ 有効回答数

1448人

調査対象条件に該当した者から、文部科学省「平成29年度学校基本調査 全日制・本科 生徒数(県別)」を基に、
[関東][東海][関西][その他]の4エリア別に調査(サンプル)数が実際の生徒数の比となるよう設定した。

[関東]エリア：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

[東海]エリア：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県

[関西]エリア：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

[その他]エリア：上記以外の都道府県

[関東][東海][関西][その他]エリアそれぞれにおいて、文部科学省「平成29年度学校基本調査」から調査対象者の母集団の男女構成比を算出し、回収あとの4エリア内の男女構成比をウエイトバック集計により補正を行った。

	【回収実数】 ウエイトバック前			ウエイト値		【補正調査数】 ウエイトバック後		
	全体	男子	女子	男子	女子	全体	男子	女子
全体	1,448	370	1,078	-	-	1,448	728	720
4エリア別								
関東	458	124	334	1.854	0.685	459	230	229
東海	178	45	133	1.991	0.662	178	90	88
関西	244	62	182	1.954	0.669	243	121	122
その他エリア	568	139	429	2.069	0.655	569	288	281

※2012年・2014年・2015年の調査方法は2018年と同じ。

※2009年調査について

・調査方法：郵送調査

・調査対象：株式会社カルチュア・コンビニエンス・クラブのモニター会員のうち、高校2年生、3年生、新大学1年生の男女。

・集計対象数：1273人

[関東][東海][関西][その他]エリアそれぞれにおいて、当該年度の母集団の男女構成比を算出し、エリア毎の男女構成比を補正している。

【調査対象者プロフィール】

■ 現在(2018年9月)の学年（全体／単一回答） (%)

	高校1年生	高校2年生	高校3年生
2018年 全体 (n=1448)	33.4	32.6	34.0

■ 性別（全体／単一回答） (%)

	男性	女性
2018年 全体 (n=1448)	50.3	49.7

■ 高校所在エリア（全体／単一回答） (%)

	関東	東海	関西	その他 エリア	北海道	東北	甲信越	北陸	中国・ 四国	九州・ 沖縄
2018年 全体 (n=1448)	31.7	12.3	16.8	39.3	3.7	7.5	5.1	2.4	9.6	10.9
性別 男子 (n= 728)	31.6	12.3	16.6	39.5	2.3	7.7	5.4	2.6	11.1	10.5
性別 女子 (n= 720)	31.8	12.2	16.9	39.1	5.2	7.3	4.8	2.3	8.2	11.3

■ 高校卒業後の希望・検討進路：すべて（全体／複数回答） (%)

	進学希望・検討			就職	その他
	大学短大進路	大学進路	専門学校進路		
全体 (n=1448)	78.2	15.6	37.0	16.0	2.5
性別 男子 (n= 728)	85.2	10.9	30.3	17.8	3.0
性別 女子 (n= 720)	71.1	20.4	43.9	14.3	2.0

※表内 +10.0 「2018年 全体」よりも10ポイント以上高い - 5.0 「2018年 全体」よりも 5ポイント以上低い
+ 5.0 「2018年 全体」よりも 5ポイント以上高い -10.0 「2018年 全体」よりも10ポイント以上低い